

平成23年度「成長分野等における中核的専門人材養成の戦略的推進事業」 クリエイティブ分野産学コンソーシアムの進捗状況【報告】

コンソーシアム代表機関
学校法人 文化学園

1. 事業目的

今、ファッション界は大変な曲がり角に立っている。日本の近代化とともに発展してきた繊維・ファッション産業が、中国を中心としたアジア諸国の急速な発展・追い上げに対応の変化が迫られている。今後も成長が大いに見込めるファッション分野において急務となっているグローバルな視点に立った人材育成を先導するため産学コンソーシアムを組織化し、多様化が進む時代や急激な環境の変化にも即応できる中核的専門人材を養成する学習システムの基盤を整備・構築していく。

2. 事業内容

この事業は、ファッション分野における時代に即応したグローバルな専門人材等の養成等を目的として、その具体的な教育プログラムを調査・研究・協議しながらモデル・カリキュラム基準等を構築していくものとする。ファッション界は素材メーカー・産地・卸・小売など、広きに細分化している。このため、将来に有為となる人材像をそれぞれの段階ごとに想定しながら、ファッション関係諸団体、産業界、専門学校・大学等から連携・協力を図ることにより、より実践的で高度な、かつ、職業人として効果的な学習システムを構築していくことが必要となる。

次代に向けた人材育成のため、産学が連携を強化して共に取り組む学習システムの構築を目指し、以下の主な4項目に分け、進めていく。

- ① 新たな人材需要に応じ、教育機関に求められる課題と対応策を検証し、モデル・カリキュラム基準等を構築していく
- ② 実践的な職業能力を育成する効果的な学習体系の構築に向けた調査研究を行い、モデル・カリキュラム基準・達成度評価等に反映させる
- ③ 教育界と産業界の情報交流の場を整備するための仕組みを研究し、モデル・カリキュラム基準等を実験・実践する
- ④ 就業後、さらにファッションについて学びたいと考えている人材受入れを促進するため、社会人が学びやすい学習システムを検討し構築を目指す。

4. 産学コンソーシアムの構成員・構成機関等

※の付いた分科会委員は、委員会委員も兼ねる

委 員 会	
氏名	所属・職名
相原 幸子	文化服装学院
鈴木 洋子	文化服装学院
熊谷(登坂) 伸子	文化学園大学
馬場園 晶司	文化ファッション大学院大学
森 慈郎	大阪文化服装学院
深田 勝久	香蘭ファッションデザイン専門学校
萩平 勉	(株)オンワード樫山
中本 文太	(株)サンエー・インターナショナル
富高 彰生(章)	(財)ファッション産業人材育成機構
西田 光治	(一財)日本ファッション教育振興協会
正戸 健次	繊維ファッション産学協議会
渡辺 博史	(株)織研新聞社
名称(クリエイション)	
氏名	所属・職名
相原 幸子 ※	文化服装学院
野中(櫛下町) 慶子	文化服装学院
馬場園 晶司 ※	文化ファッション大学院大学
谷内 真佐子	北海道文化服装専門学校
安部 智子	杉野服飾大学
安藤 文子	名古屋学芸大学
堀畑 裕之	(株)LEWS 纏
川島 朗	(一般社)日本ファッション・ウィーク推進機構
早川 彩子	(株)あぶち

名称(ファッションビジネス)	
鈴木 洋子 ※	文化服装学院
砂生 政信	文化服装学院
熊谷(登坂) 伸子 ※	文化学園大学
松下 美恵子	大阪文化服装学院
深田 勝久 ※	香蘭ファッションデザイン専門学校
長谷部 彰	(株)オンワード樫山
藤原 卓	元(株)サンエー・インターナショナル
吉川 新吾	(株)織研新聞社
名称(グローバルビジネス)	
松田 祐之	文化学園大学
澤谷 目童	文化服装学院
森 慈郎 ※	大阪文化服装学院
中庭 隆	(株)オンワード樫山
坂口 昌章	(有)シナジープランニング
西郷 陸	(一般社)日本ファッションビジネス協会
山地 保	(株)織研新聞社
名称(社会人教育)	
井手口 和子	文化服装学院
前川 浩司	イオンリテール(株)
富高 彰生(章) ※	(財)ファッション産業人材育成機構
正戸 健次 ※	繊維ファッション産学協議会

5. 会議(委員会、分科会等)の開催実績と今後の予定(23年度内)

委員会

第1回 12月21日(水) 12:00 ~ 14:00 第2回 1月30日(月) 16:00 ~ 18:00
第3回 3月1日(木) 15:00 ~ 17:00

分科会

クリエイション

第1回 1月19日(木) 13:00 ~ 15:00 第2回 2月2日(木) 13:00 ~ 15:00
第3回 2月20日(月) 19:00 ~ 21:00 第4回 2月28日(火) 13:00 ~ 15:00

ファッションビジネス

第1回 1月19日(木) 15:30 ~ 17:30 第2回 2月2日(木) 13:00 ~ 15:00
第3回 2月17日(金) 15:00 ~ 17:00 第4回 3月7日(水) 15:00 ~ 17:00

グローバルビジネス

第1回 1月20日(金) 13:00 ~ 15:00 第2回 2月3日(金) 13:00 ~ 15:00
第3回 2月17日(金) 15:30 ~ 17:30 第4回 3月7日(水) 15:00 ~ 17:00

社会人教育

第1回 1月20日(金) 15:30 ~ 17:30 第2回 2月6日(月) 10:00 ~ 12:00
第3回 2月17日(金) 15:30 ~ 17:30 第4回 3月7日(水) 15:00 ~ 17:00

合同委員会

3月13日(火) 11:00 ~ 13:00

6. アンケート調査やヒアリング調査について

クリエイション(分科会)

・ヒアリング

実施時期: 2012年1月20日(金) ~ 2月1日(水)

実施内容: クリエーション分野に所属する学生の希望職種について。またデザイナー希望者については、企業デザイナー、もしくは独立デザイナー希望者の割合について。

発送数 : 分科会委員が所属する学校(5校)の学生に直接聞き取りを行ったため、発送はなし。

対象者数: 511名

回収率 : 100%

集計・分析 : ①-a.文化服装学院1年次(ファッション工科基礎科)・・・デザイナー(18名、44%)、パタンナー(11名、27%)、その他(バイヤー、ファッションアドバイザーなど)(12名、29%)

① -b.文化服装学院2年次(アパレルデザイン科2年)・・・企業デザイナー(63名、38%)、独立デザイナー(68名、42%)、その他(33名、20%)

- ① -c.文化服装学院 3 年次(アパレルデザイン科 3 年)・・・企業デザイナー(42 名、52%)、独立デザイナー(14 名 18%)、その他(24 名、30%)
- ② -a. 文化ファッション大学院大学ファッションクリエイション専攻ファッションデザインコース 1 年次・・・企業デザイナー(3 名)、クリエイティブディレクター(33 名)、オーナーデザイナー(4 名)
- ② -b. 文化ファッション大学院大学ファッションクリエイション専攻ファッションデザインコース 2 年次・・・企業デザイナー(4 名)、クリエイティブディレクター(28 名)、オーナーデザイナー(5 名)
- ③ -a. 杉野服飾大学モードクリエーションコース 3 年次・・・企業デザイナー(21 名)、独立デザイナー(3 名)、その他(39 名)
- ④ -a. 名古屋学芸大学・・・デザイナー(22 名)、パタンナー(11 名)、プレス(18 名)、スタイリスト(13 名)、営業(9 名)、企画(38 名)、MD(26 名)、販売(26 名)、大学への進学(3 名)、留学(17 名) ※対象 86 名 複数回答可
- ⑤ -a. 北海道文化服装専門学校・・・企業デザイナー、独立デザイナー含め、希望者、実質就職者ともに非常に少ない。販売職の方が就職しやすい。

分析結果：年次をおうごとに、独立デザイナーの割合が減り、企業デザイナー、パタンナー・販売などのその他の職種の希望者の割合が増えていくのが特徴。

しかし、卒業年次あたりでも独立デザイナーを希望する学生数は少なくない。企業デザイナーへの偏見(好きなデザインができない、企業に就職するより個人でやった方が好きなことができる・・・)をキャリア教育の中で取り除いていく必要があるのでは、という意見がでた。独立デザイナーは自分のブランドを持ち、自由にデザインし好きな洋服をつくることができる、というイメージを持ちがちだが、実際は費用面でなかなか融通がきかず希望の素材を使うことができなかつたり、個人では工場のやりとりで苦勞したり、と弊害が多い。逆に、企業デザイナーは、そのブランドのカラーを守れば会社の資金で好きな素材を使用しデザインすることができる。また、独立デザイナーは少人数で運営しているため、一人でデザイン以外にも、営業、縫製などしなければならないが、企業デザイナーであれば、デザインに集中できる、というメリットもある。

よって、クリエイションのモデルカリキュラムでは特別講師として独立系デザイナーのみならず、企業デザイナーも招き、企業デザイナーの実際の仕事内容や魅力を語ってもらうような内容も組み込みたい。

グローバルビジネス(分科会)

実施時期:2012年2月29日(水)～3月20日(火)

実施内容:ファッション関連企業のグローバルビジネスにおける現状および、グローバル人材への意識調査と教育界への要望の調査。アンケート内容は【別紙資料】参照。

発送数 : 937社。関西ファッション連合会員企業592社、小売企業7社、有力アパレル企業199社、ファッション関連企業89社、中国企業及び中国でビジネスを展開している企業50社(直接配布)

回収率 : 回収後、分析については、次年度に実施し、モデルカリキュラムに反映させる。

視察調査

実施日 : 2012年2月20日(月)～21日(火) 1泊2日で実施

視察者 : クリエーション(分科会)委員6名及び事務局1名

委員:相原幸子 安部智子 安藤文子 谷内真佐子 野中(櫛下町)慶子 馬場園晶司

事務局:小池えりか

視察先 : 愛知県 尾州工場(日本毛織一宮工場、中伝毛織株式会社)

視察成果 : 日本毛織一宮工場、中伝毛織株式会社、ともに日本の毛織物工場を代表する会社であり、充実した施設・設備を見学させていただけた。

実習・雇用サイドとしてのモデル・カリキュラム基準及び達成度評価等の検討・実証のコラボレーションについても、比較的積極的で、今後、生地や商品の開発、販売、展示など含め、細かく内容を分科会で検討したうえで、改めて、両社にコラボレーションの依頼をしたいと考えている。

また、デザインから販売まで一貫した実践的工程を、モデルカリキュラム基準に組み込みたい。



日本毛織一宮工場の外観(内部は撮影NG)



社員に最新織機の説明を受ける(中伝毛織株式会社内)



ニット編み機(中伝毛織株式会社内)



サンプルの展示室(中伝毛織株式会社内)

7. モデル・カリキュラム基準等について

クリエイション

- ① 素材への知識を深めることが、今後の日本における制作技術の強化につながると考え、複数の学校の希望者を集め、国内外の産地との連携による作品制作、素材開発、展示・販売の機会を創出する。
- ② 企業と連携し、工場の見学、新しい生地の開発、工場の生地を使用した作品作りを一貫して行う。また、完成した作品については、日本最大の繊維見本市などの企業の方も多く来場する場にて展示。また、学生が作品制作のみで終わるのではなく、販売・発表など、よりビジネスやプレゼンテーションの能力も高めるモデル・カリキュラム基準等、達成度評価手法の開発に取り組み、実証する。
- ③ グローバル人材の育成も視野に入れ、海外の産地とのコラボレーションによる産地見学・作品制作や、海外校との交換作品研究など、海外の企業、大学等との交流も取り入れ、国際的な枠組みの中で必要なモデル・カリキュラム基準等を検討。

ファッションビジネス (FB)

- ① FB 授業（ローカルのマーケティング＋商品生産＋販売）の成果を発表し、産業界がこれを評価する場を全国規模で行う。途中、経過報告会を開き、教員・学生・業界人相互の交流も図るなど、生産から販売までを実践する一貫したモデル・カリキュラム基準を策定する。
- ② 学生が主導するFB実習とその成果を検証する成果報告会を設け、全国から参加者を募集し、産業界も参加して評価を行う等を通じて達成度評価等の検討を行う。
- ③ 別途、マネジメント・マーケティング授業・ゼミなどのモデルも検討していく。

グローバルビジネス

- ① グローバル化に対応する専門人材の育成には、現行のカリキュラムにおける教育には限界がある。既存のカリキュラムにはない、グローバルな視点が必要なコミュニケーション力等、新しい学習プログラムの導入が不可欠。アパレル団体や企業の参画を得て必要なモデル・カリキュラム基準等を構築する。
- ② ①の実施に伴い、学生自身がグローバルな視野で成果目標を各自で設定させ、自ら課題を設定し対応していく能力を育成するカリキュラムを策定することが必要。
- ③ グローバル化に対応したリーダーとして活躍できる人材育成のため、ニーズが高い海外特にアジアで成功している企業等に参画してもらおう一方、日本のファッション技術の優位性、特殊性も理解するモデル・カリキュラム基準を組成、実証する。

社会人教育

- ① 「社会人教育」の対象を入社後3～4年仕事をしたグループと7～8年のグループとし、異業種、他業種からも受け入れ可能なモデル・カリキュラム基準等の構築を目指す。
- ② 最終的な目標として企業自らの力で人を育て上げられるようになることを設定。企業内の実践家を講師として活用し、企業内で実習を含めたカリキュラム基準を実証する。特に人材育成の余裕がない中小アパレル企業を中心に活用されるカリキュラムモデルを構築する等、我が国全体の関係企業における再教育のモデル・カリキュラム基準を構築することを目指す。
- ③ 産業人として基礎的なスキルを習得するため、異業種、他業種から参入する人材にアパレル業界全体の仕組み、歴史を学ぶカリキュラムを策定、実施していく。
- ④ リーダーの育成のため、国際基準や法的規制、英語力、交渉力等コミュニケーション能力、リーダーシップ能力を修得するモデル・カリキュラム基準等を策定、実施していく。
- ⑤ ファッション業界の新たなニーズに対応する人材養成のため、専門的な技術を備えた人材にマネジメント・マーケティング等の能力を修得するためのモデル・カリキュラム基準等を実証する。

8. 次年度以降の取組方針

- ① クリエーション、ビジネスなどに特化したファッション業界で中核的にその力を発揮し、活躍できることを狙ったモデル・カリキュラム基準等の構築成果を現業に生かすため、全国のファッション教育機関・学校・業界に周知・普及する。また、当該参加校・企業の協力により、モデルケースとして改良を行い、実証をする。
- ② ①の成果を、ファッション専門人材を育てる教育機関に活用・反映していくため、地域の現状も踏まえながら、実状に適した学習システムを構築していく。
- ③ ファッション業界は環境の変化が激しいため、軌道修正の必要などがあれば、臨機応変に対応していく。
- ④ 教育の使命である持続性・発展性を見据え、教育界と産業界が密接に情報を共有し、事業のフィードバックと修正を繰り返しながら、人材育成事業のさらなる発展に寄与していく。

【別紙資料】

以下の質問項目に対する答えを、別紙回答用紙（2枚）にご記入ください。

◆ 貴社情報について

1-1) 貴社の業態・業種について、該当項目をお選びください。（複数回答可）

- | | |
|--------------------|--------------|
| ① アパレルメーカー | ② ファッション小売企業 |
| ③ 大型流通小売業（百貨店、GMS） | |
| ④ 紡績・染色加工産業 | ⑤ 縫製業界 |
| ⑥ 副資材メーカー | |
| ⑦ その他（ | ） |

1-2) 貴社の売上について

- | | |
|---------------------|---------------------|
| ① ～ 1,000万円 | ② 1,001万円 ～ 5,000万円 |
| ③ 5,001万円 ～ 1億円 | ④ 1億円 ～ 10億円 |
| ⑤ 11億円 ～ 100億円 | ⑥ 101億円 ～ 500億円 |
| ⑦ 501億円 ～ 1,000億円 | ⑧ 1,001億円 ～ 2,000億円 |
| ⑨ 2,001億円 ～ 3,000億円 | ⑩ 3,001億円 ～ |

1-3) 貴社の社員数について

- | | |
|-------------------|-------------------|
| ① 1人 ～ 5名 | ② 6名 ～ 10名 |
| ③ 11名 ～ 30名 | ④ 31名 ～ 50名 |
| ⑤ 51名 ～ 100名 | ⑥ 101名 ～ 200名 |
| ⑦ 201名 ～ 500名 | ⑧ 501名 ～ 1,000名 |
| ⑨ 1,001名 ～ 2,000名 | ⑩ 2,001名 ～ 4,000名 |
| ⑪ 4,001名 ～ | |

◆ 貴社のグローバルビジネスの現状について

2-1) グローバルビジネスの内容について、該当する項目をお選びください。(複数回答可)

- ① 海外生産
- ② 海外市場に輸出
- ③ 海外市場で店舗展開 (直営店、代理商を含む)
- ④ 海外企画 (海外に企画拠点がある)
- ⑤ 海外法人がある (独立資本、合弁含む)
- ⑥ 日本本社で外国人を雇用している
- ⑦ 現在は行っていないが、予定はある。
- ⑧ その他 ()

2-2) 海外市場における貴社の販売会社 (販売拠点) の形態について、該当項目をお選びください。(複数回答可)

- ① 独資法人
- ② 他の日本企業との合弁
- ③ 中国企業を含む合弁
- ④ 現地法人を設立せず現地企業への業務委託
- ⑤ その他 ()

2-3) 海外市場における店舗展開について、該当項目をお選びください。(複数回答可)

- ① 直営店
- ② 販売エージェント、代理商
- ③ FC展開 (加盟商)
- ④ その他 ()

2-4) 海外進出の時期とその時点での内容について教えてください。

_____年 _____月

- ① 海外生産拠点、海外生産工場
- ② 海外営業拠点
- ③ 海外卸売拠点
- ④ 海外小売拠点
- ⑤ その他 ()

2-5) 貴社の展開店舗数について教えてください。

中国 ()	韓国 ()	台湾 ()
香港 ()	シンガポール ()	
タイ ()	インドネシア ()	
EU ()	アメリカ ()	
その他 ()		

◆ 教育現場に求めること

4-1) グローバル人材として、学生時代に学んでおくべきことについて、以下の項目から優先順位の高い順に5つお選びください。

- ① 英語
- ② 中国語
- ③ ビジネス文章力（手紙、メールを書く力）
- ④ 国際的なビジネスマナー
- ⑤ 日本のファッション産業及び流通の基礎知識
- ⑥ 世界のアパレル産業の発展の推移と現状
- ⑦ 伝統文化、伝統工芸、きものに関する基礎知識
- ⑧ 素材、テキスタイルの基礎知識
- ⑨ 生産管理・品質管理に関する基礎知識
- ⑩ デザイン、アートの基礎
- ⑪ 縫製、パターンメイキングの基礎
- ⑫ 企業会計、計数管理に関する知識
- ⑬ 商品開発、商品企画に関する知識
- ⑭ 商談、交渉に関する基礎知識
- ⑮ ビジネスに関する法律の基礎知識
- ⑯ プレゼンテーションの基本
- ⑰ マネジメントに関する基礎知識
- ⑱ マーケティングに関する基礎知識
- ⑲ 一般教養知識（社会、経済、歴史、文化）
- ⑳ 海外インターンシップ、海外留学経験
- * その他（)

「成長分野等における中核的専門人材養成の戦略的推進」事業 モデル・カリキュラムのイメージ（クリエイティブ分野）

成長が見込めるファッション分野において、グローバル化に対応し、さらに先の時代を切り拓くことのできる人材を養成するためのモデルカリキュラム基準等を構築する。

